

だい ぶ かだい
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい
第16回

まいにち にゅうりよく
毎日パソコン入力コンクール

とう き たい かい
冬季大会

か だい
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん
第5部 和文A 小学生高学年

かんようく
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう
【コンクール当日の注意事項】

1. この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
2. 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
(文字数2,200字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい
主催

まいにちしんぶんしゃ
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりよくけんていいいんかい
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん
後援

そうむしょう
総務省

もんぶかがくしょう
文部科学省

こうせいろうどうしょう
厚生労働省

けいざいさんぎょうしょう
経済産業省ほか

ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。

※  の箇所かしよ かいぎょうで改行 (Enter) してください。

 むね胸がすく 

きぶん不ゆかいな気分きが消えて、きもち気持ちむねがすっきりする。胸むねがすっとする。 
さいご最後にぎゃくてん逆転して、むね胸おもがすく思いおもがした。 

 ひつよう必要はつめいは発明ははの母 

ふべん不便かんを感じてどうしてもひつようこんなものが必要おもだと思おもうとき、はつめい発明うが生まれる。 

とお「遠くの人ひととかい会わ話でが出来きたらいいな」のおも思いおもからでんわ電話うが生まれたよう
に、ひつよう必要はつめいは発明ははの母である。 

 あじ味そも素けっ気なも無い 

なん何あじの味あじわいおももおもしろみおももない。思おもいやりおももなくおもつめたい。つまらな
い。 

あじ味そも素けっ気なも無い冷ひややかなたいど態度。 

 りょうやく良薬くちは口にがに苦し 

じぶん自分のみ身ちゅうこくのためきになる忠告きほど聞きくのがきつらいものだ。 

りょうやく良薬くちは口にがに苦しみと、みみ耳いたに痛ちゅうこくい忠告すなおを素直きに聞きく。 

 み実むすを結むすぶ 

どりょく努力けっして、かよい結え果えが得えられる。 

どりょく努力みが実むすを結むすんで、ごうかく合格ごうかくできた。 

 ま目めのあまたりにする 

め目まえの前みで見じっさいる。実め際めに目めにする。 

ちじこょうどまいあまわせて事ま故まを目まのあまたりにする。 

 かめかめとしのここううこうより年こうの功 

ながねん長年けいけんの経な験なは何きちようにもねんちようしゃまちえして貴ちえ重ちえである。年ちえ長ちえ者ちえの知ちえ恵ちえをほめることば

。 
かめかめとしのここううこうより年こうの功ははで、母ははは祖そ母おそにいろいおそろ教おそわっている。 

 あ開くちいた口くちがふくちさがらない 

ああくちきれてものいが言いえない。 

ああくちまりのずくちうずくちうしくちさに開くちいた口くちがふくちさがらない。 



あつと言わせる

思いもかけないことをして、人をおどろかせる。感心させる。

優勝して皆をあつと言わせてやる。



類は友を呼ぶ

性格や考えの似ている者どうしは、自然に集まって仲間になるものだ



類は友を呼んで同好会ができた。



明鏡止水

心が澄みきっていて落ち着いた気分であるようす。

やるべきことはすべてやって、今は明鏡止水の心境だ。



鼻が高い

得意なようす。自慢するようす。

郷土の力士が優勝すると、ぼくまで鼻が高い。



百聞は一見にしかず

人から百回聞くより、実際に自分で一回見る方がよく分かる。

こんなに大きいとは、百聞は一見にしかずだ。



喉元過ぎれば熱さを忘れる

苦しかったこと、つらかったことや、その時に受けた恩も、過ぎてし

まえばけろっと忘れてしまうものだ。

喉元過ぎれば熱さを忘れるで、試験後はまた遊んでばかり。



日常茶飯

毎日のありふれたこと。

わが家では昼間は猫一ぴきが日常茶飯だ。



耳が早い

世の中のうわさなどを、人より早く聞きつけて、よく知っているよう

す。

さすがは耳が早い、新しく来た転校生の家をもう知っている。

縦横無尽

ものごとを自分の思い通りにするようす。思う存分。自由自在。
四番打者として縦横無尽の活躍をする。

目鼻を付ける

だいたいの見通しを付ける。
秋には景気も回復すると、目鼻を付ける。

口が重い

口数が少ない。あまりしゃべらない。
家ではよくしゃべるのに外では口が重い。

きもを冷やす

おどろいてぞっとする。ひやっとする。
飛行機がおおきくゆれてきもを冷やす。

木を見て森を見ない

細かい所に気をとられて全体をとらえない。目先のことしか考えない

木を見て森を見ないからかんじんなことを見落とすんだ。

手心を加える

相手やその場の事情に応じて、ほどよく加減する。その場に応じてあ
つかい方をゆるやかにする。手加減をする。
相手はまだ小さい子だからと手心を加える。

引けを取らない

勝負や競争をして負けない。
値段は安いが、品質では引けを取らない。

ぶっつけ本番

練習や準備もなしでいきなり行うこと。
ぶっつけ本番で火事の場面を撮影する。

牛に引かれて善光寺参り

自分の考えでなく始めたことが、知らない間に良い行いになっている。
いやいやしているうちに、だんだん熱心になる。

はじめは子どもにせがまれてつりに行っていたのだが、牛に引かれて
善光寺参りで、今ではやみつきになってしまった。



悪戦苦闘

不利な状態で苦しい戦いをする。困難にうちかとうと苦しみが
ら努力すること。

悪戦苦闘の末、やっと頂上にたどり着く。



耳が痛い

弱点や失敗を言われて聞くのがつらい。

君には耳が痛い話になるが聞いてくれ。



日の目を見る

うもれていたものが、世の中に出て人に知られ認められる。

うもれていた作品がやっと日の目を見る。



仏の顔も三度

どんなにおとなしく、やさしい人でも、何度もばかにされたり、ひど
いことをされたら、しまいには腹を立てる。

とうとうがまんできず、仏の顔も三度とばかりおこりだす。



目の中に入れても痛くない

かわいくてたまらない。

孫がかわいくてかわいくて目の中に入れても痛くないよ。



どんぐりの背比べ

どれもみな変わりばえがなく、特にすぐれたものがないこと。

どの作品もどんぐりの背比べで、そう変わらない。



歯牙にも掛けない

問題にしない。無視して相手にしない。

自信があるのか何を言われても歯牙にも掛けない。



電光石火

ひじょう
非常にすばやいこと。◀

でんこうせつ か はや
電光石火の早わざ。◀

◀

かたずをのむ◀

い き きんちょう
どうなることかと息をのんで、緊張している。◀

いっきいちどう みまも
一挙一動をかたずをのんで見守る。◀

◀

となり はな あか
隣の花は赤い◀

た にん もの じぶん もの み おも
他人の物は自分の物よりよく見えて、うらやましく思えるものだ。◀

となり はな あか きみ
隣の花は赤いで、君のほうがおいしそうね。◀

◀

ま かい り ひより
待てば海路の日和あり◀

いま ま かなら とき く
今はうまくいなくても、じっと待っていれば、必ずいい時が来る。◀

あせるな、あせるな、待てば海路の日和あり。◀

◀

いいきになる◀

とく い
得意になって、うぬぼれる。◀

ゆうしょう き
優勝したからといっていい気になるな。◀

◀

ぎょ ふ り
漁夫の利◀

りょうしゃ あらそ くろう り えき よこと
両者が争っているすきに、ほかのものが苦労もなく利益を横取りする
こと。◀

りょうしゃ あらそ あいだ ぎょ ふ り え
両者が争っている間に漁夫の利を得る。◀

◀

ぶた しんじゅ
豚に真珠◀

ね う ひと なん か ち
どんなに値打ちがあるものでも、それがわからない人には何の価値も
ない。◀

ちい こ こう か ぶた しんじゅ
小さな子にこんな高価なカメラ、豚に真珠だよ。